

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第14回 輸送容器分科会 (F3SC) 議事録

1. 日時 2003年4月7日 (月) 14:00～17:00

2. 場所 (株) オー・シー・エル 大会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 有富 (主査), 二瓶 (副主査), 林 (幹事), 芦澤, 伊藤, 植木, 大岩
尾崎, 久保, 小芝, 清水 (仁), 辻 (朝), 辻 (博), 広瀬, 松田
丸岡 (16名)

(代理出席委員) 吉澤 (道券委員代理), 下条 (谷内委員代理) (2名)

(欠席委員) 木倉, 佐藤 (2名)

(常時参加者) 赤澤, 石川, 川上, 白井, 藤本, 吉田 (藤原代理), 松本, 山本 (8名)
(事務局) 市園

4. 配付資料

F3SC14-1 第13回 輸送容器分科会 議事録 (案)

F3SC14-2 標準委員会の活動概況

F3SC14-3 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準 (案) 第13回分科
会附属書案 (しゃへい、臨界) コメント対応表

F3SC14-4 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準: 2000本体

F3SC14-5 輸送容器標準 附属書及び解説候補例(案)

参考資料

F3SC14-参考1 輸送容器分科会委員一覧

F3SC14-参考2 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

5. 議事

(1) 出席者の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 20名の委員中, 17名の委員及び2名の委員代理の出席があり, 決議に必要な委員数
(14名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

事務局より赤澤孝氏 (関西電力) が常時参加者への登録を希望されている旨報告があり, 全会一致で承認した。

(3) 前回議事録確認

事務局より, F3SC14-1により前回議事録の確認を行い承認された。

(4) 標準委員会等の活動概況報告

事務局より, F3SC14-2により標準委員会等の活動状況について報告があった。

(5) 標準原案の審議

a. 前回分科会コメント等について

松本氏より, F3SC14-3により前回分科会コメント, 第12回原子燃料サイクル専門部会コメント及び第14回標準委員会コ
メント並びにその対応案の説明があり以下のコメントと共に対応案が了解された。

- ・ 4.2.2 c) 1.9)は高レベル廃棄物だけではなく, 他の場合も必要ではないか。
- ・ 基本事項は4.2.2 c) 1)に記載しており, 1.9)を削除し, 1.3)に追記すべきではないか。
- ・ 4.2.2 c) 1.3)と1.9)の両方に記載する場合と片方削除の場合について再度検討を行う。
- ・ 原子燃料サイクル専門部会コメントNo.12の備考欄は技術的内容のみを記載すべきではないか。日本機械学会規格と
矛盾がないことを趣旨とし, なお書きで附属書構-10について記載する。

b. 密封関係附属書について

松本氏より, F3SC14-4により密封関係の附属書の説明があった。以下のような質疑が行われた。

- ・ IAEA1996年輸送規則には流れの式など具体的なものはなく, ISOとANSIはほぼ同じ内容である。
- ・ 附属書 密-9において燃料被覆管が破損してもペレットがあり, すぐには燃料微粒子が出ないことを記載すべきで
ある。
- ・ 附属書 密-10の5.に記載される一般の試験条件に関する修正案は松田委員が作成する。
- ・ 漏えい率の単位は「/週」で良いのか。
- ・ SI単位を原則としているが, 法規等の強制規格に基づく場合は許容している。

c. 検査関係附属書について

川上氏より、F3SC14-4により検査関係の附属書の説明があった。以下のような質疑が行われた。

- 附属書 検-1の「使用」→「供用」とする。
- 附属書 検-1 3.6.2.1の残留水分はガラス固化体とMOX燃料用の輸送容器には不要ではないか。
- TN型は検査ではないが手順として残留水分を見ている。
- 蒸気分圧があるので、少なくとも使用済燃料用輸送容器には必要である。
- 3.6.2.1のa)のみ「(使用済燃料乾式輸送容器の場合)」とする。
- 「キャスク」→「輸送容器」に統一する。
- 判定基準に「○○規格」といった「○」が入っているが、極力具体的に記載し、「○」を使用しない。
- 注意書きとして特殊材料の扱いを記載する。
- 附属書 検-2の「無視」は学会基準としてはふさわしくなく、「少ない」などと修正する。
- 「等」の使用は極力減らす。
- 附属書 燃-1 (規定) 3.の基準が大きく異なっているのではないか。
- 前半は0.2%歪み、後半は数10%の歪みを考えており、基本的に後半だけの内容とし、これに加えて代替措置を定める記載とする。
- 附属書 燃-1 (規定) において燃料の形状維持が抜けているのではないか。
- 取り扱い上の支障がないことを定めており、附属書 燃-1 (規定) は漏えい燃料に関する附属書としている。

d. その他

松本氏より、F3SC14-4によりコメント対応以外の修正部について説明があり了解された。

- 附属書 構-10において2.として貫通試験の記載を追加した。
- 附属書1 (規定) を標準委員会コメントにより追加した。内容的には中間貯蔵用金属キャスクの設計検査基準と同等である。

(6) 今後の予定

次回の原子燃料サイクル専門部会に附属書を中心とした中間報告を行うこととなった。なお、原案に対するコメントを4月21日までに事務局まで送付することとなった。

また、今回はコメント対応、全体の横並び確認及び解説を含めた標準一式の最終審議を目標とし、第15回分科会は、6月26日午後を開催することとなった。

以上